

2024年
ご復活号

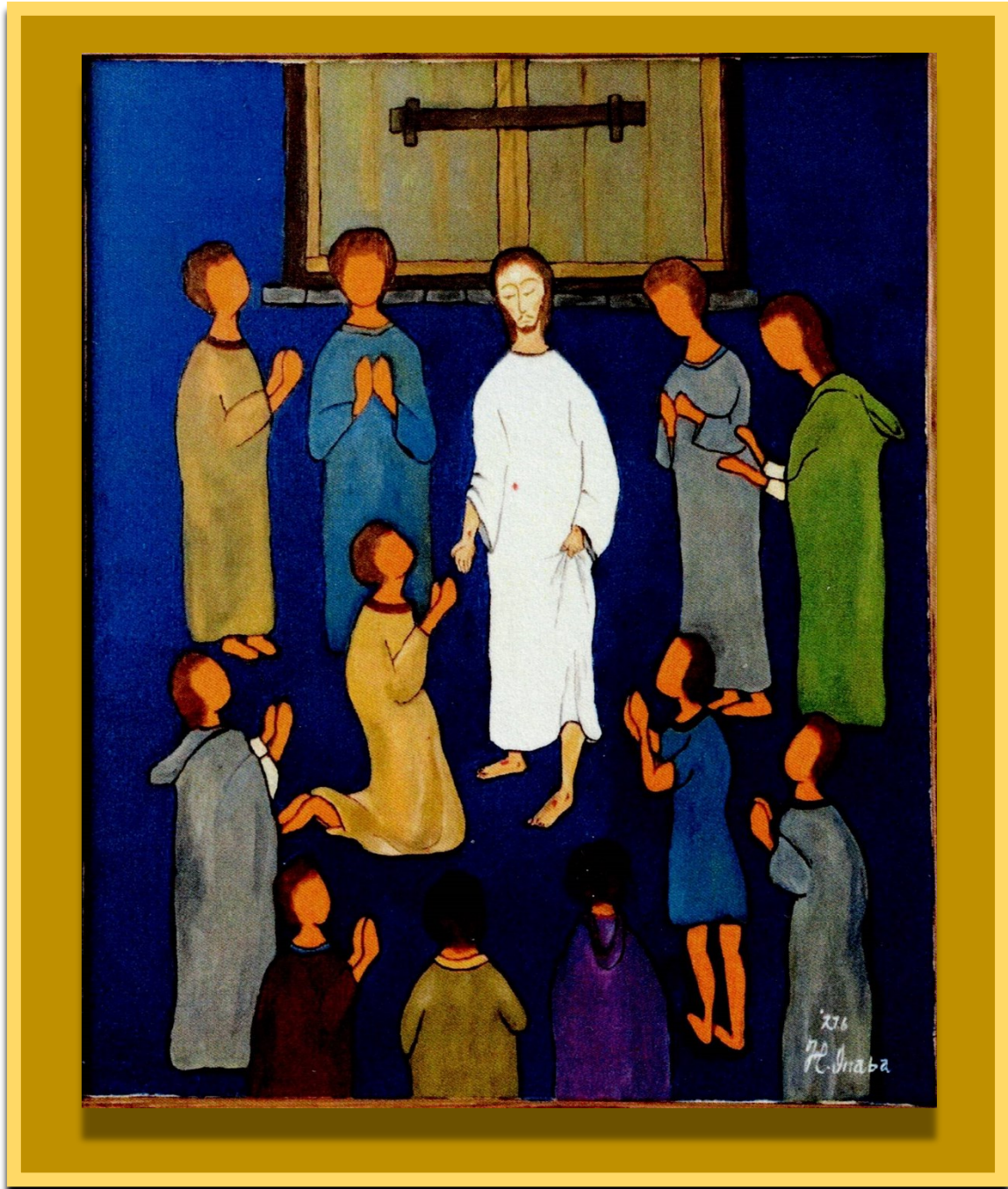
カトリック笹丘教会ニュース

No.0110



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)

ホームページ用に作成しています



見ないのに信じる人は、幸いである。(ヨハネ20・29)

カトリック鳥栖教会所属 稲葉人志氏作

THE RESURRECTION OF CHRIST ASSURES US OF ETERNAL LIFE



About 1600 years ago, St. Augustine preached about the glory of Easter to his faithful in the church of Hippo. I would like to introduce an excerpt from his homily (no. 29). “So the resurrection of Christ is what determines and pinpoints our faith. In both the Old and the New Testament it is written that we should repent and receive forgiveness of sins in the man in whom he defined for all, raising Him from the dead. This is what defines our faith, the resurrection of our Lord Jesus Christ. You can live forever; provided you live a good life. Don't be afraid of dying a bad death; be afraid indeed, but of living a bad life. To avoid dying, you can do nothing; to live a good life, this you can do. Do what you can do, and you will have no reason to fear what you can't do”

St. Augustine teaches us that through Christ's resurrection we are freed from the fear of a death which we cannot escape. We are promised that we will have a share in the eternal life promised by Jesus' resurrection. Our fear is replaced by an unswerving joy which no one can take from us. However, we can lose this joy if we turn our eyes away from this promised gift and thus letting the light of our faith extinguish. Let us keep alive the light of our faith which brings us the unimaginable joy of sharing in God's everlasting life. Let us do what we can to attain a life which has no final death. St. Augustine encourages us to do what we can do—that is to live a good life. In order to truly live a good life let us do faithfully three things: 1) Let us grow more like Jesus through daily personal prayer. 2) Let us receive all the graces that are offered to us through the Seven Sacraments, especially through Sunday Mass and Holy Communion. 3) Let us strive to be active participants in our parish faith community.

May our hearts be overwhelmed with Easter Joy at Easter time and always!

Michael J. Hilden, O.S.A.

キリストの復活は、私たちに永遠の命を保証してください

主任司祭 マイケル・ヒルデン

約1600年前、聖アウグスチヌスはヒッポという都市の教会で信者に復活の栄光について説教しました。その説教(29番)から抜粋します。「従って、キリストの復活は私たちの信仰を決定し、正確に位置づけるものです。旧約聖書と新約聖書のどちらにも『私たちは悔い改め、神がすべての人のために意味を定め死からよみがえらせたこの方によって、罪の赦しを受けるべきである』と書かれています。これが私たちの信仰、つまり私たちの主イエス・キリストの復活の意味を明らかにするものです。あなた方は、良い人生を送れば永遠に生きることが可能です。悪い死に方を恐れなくて、悪い人生を送ることをこそ恐れるべきです。死は避けようがありませんが、良い人生を送ることは可能です。できることをやれば、できないことを恐れる必要はなくなります」。

聖アウグスチヌスは次のように私たちに教えてくださいました。キリストの復活を通して、私たちは逃れることのできない死の恐怖から解放されます。私たちは、キリストの復活によって永遠の命に与ることが約束されています。私たちの恐怖は、誰からも奪われることのない、揺るぎない喜びに入れ替えられました。しかし、この約束された賜物から目を背け、信仰の光を消してしまえば、私たちはこの喜びを失う可能性があります。神の永遠の命に与る想像を超える喜びをもたらす信仰の光をともし続けましょう。この永遠の命を得るために、私たちにできることをいたしましょう。聖アウグスチヌスは、私たちにできること、つまり良い人生を送ることを勧めています。本当に良い人生を送るために次の3つのことを忠実にいきましょう。 1) 毎日の個人的な祈りを通して、もっとイエスのように成長しましょう。 2) 七つの秘跡、特に主日のミサと聖体拝領を通して私たちに与えられるすべての恵みを受けましょう。 3) 私たち教区の信仰共同体に積極的に参加できるように努めましょう。

復活祭のこの時期、そしてこれからもずっと私たちの心をご復活の喜びであふれますように。

小教区行事報告

新成人の祝福式 1月7日(日)

今年の新成人は7名でした。当日の参加はありませんでしたが、新成人の幸せを願って皆で祝福し、お祈りしました。



写真を外しています



信者会からの記念品メダイ



ヒルデン神父様が祝福のお祈りを唱えられ、皆で祈りました

4年ぶりの新年会 1月21日(日)

10時のミサ後、新年会が行われました。T会長の初めの挨拶、ヒルデン神父様のお話、桑原神父様の食前の祈り、Mさんの乾杯で宴のスタート。心のこもったちらし寿司、おはぎ、から揚げ、神学院大根の煮物、お吸い物など、おいしい食事を囲んで信徒同士話も弾みました。ひとしきり食事を楽しんだ後は、チャイムの演奏(クリスマスの時も素敵でしたがまたレベルアップしたと評判でした)を合図に出し物が始まりました。教会学校のM先生と子どもたちによる楽しい手遊びがウォーミングアップとなり、Kさんの司会で子どもたちが大好きなクイズ、そして4つのグループによるジェスチャーゲーム。ジェスチャーはさすがのチームワーク?で役員チームが圧倒的な優勝でした。続いてファミリア合唱団による「天のみつかいの」「アヴェ・ヴェルム・コルス」、そしてフィナーレは子どもたちも一緒に「アーメン・ハレルヤ」の大合唱。最後に皆で静かに「福音宣教者の祈り」を唱えて会が結ばれました。

写真は外しています

チャイム演奏 余興の始まり~

写真は外しています

手遊びでウォーミングアップ

写真は外しています

ジェスチャーゲーム
青年部も奮闘

写真は外しています

4年ぶりに開催された従来通りの新年会。コロナ禍からやっと抜け出せたなあ、としみじみ思われた信徒の皆様も多かったのではないのでしょうか。笹丘教会らしさと笑顔があふれた、心温まるひとときでした。この日のためにご準備くださった皆様、本当にありがとうございました。(取材 A)

笹丘ファミリア合唱団 アーメンハレルヤ

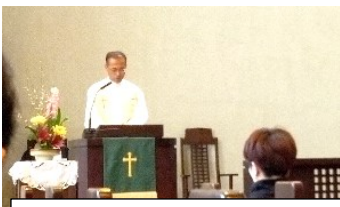
福岡教区、その他報告

2024年福岡キリスト教一致祈禱礼拝 1月21日(日)16時~17時

世界のキリスト教一致週間の今年の祈禱礼拝の会場は大名町教会にほど近い日本基督教団福岡中部教会でした。カトリック、プロテスタント諸教派が一体となって世界の平和を願って祈りました。ヒルデン神父様、アベイヤ司教様も信徒席で祈られていました。終了後は茶話会で交流しました。来年はカトリック教会が会場です。心をひとつにして臨みましょう。(エキュメニズム部会 N)



日本基督教団
福岡中部教会



エキュメニズム部会担当の
中村彰神父様(共同司式)



福岡中部教会 70名ほどの参加

写真は外しています

終了後の茶話会



司牧実習生 トマ廣田学神学生 実習終了 ありがとうございました!

昨年4月から始まった司牧実習を2月で終わられました。福岡カトリック神学院からの最後の実習生となり、信者会から花束贈呈でお別れをしました。

4月からは東京の神学院で学ばれます。



写真は外しています



助祭叙階おめでとうございます!!

3月20日(水・祝)浦上天主堂にて

ボナベントウラ ホン チャンキ 洪 燦基 新助祭

(笹丘教会司牧実習2021年4月~2022年1月)



教区宣教・養成委員会関係

宣教司牧方針に沿った活動
福岡地区信徒養成プログラム

2022年秋から始まった福岡地区信徒養成プログラム全9回(毎回午前9時半から午後5時半まで)は昨年11月、最終回を迎えました。その日はアベイヤ司教様の派遣ミサが執り行われ、参加者11人に修了証が授与されました。(詳しくは福岡教区報2024年2月号掲載) 笹丘教会からは24班のAさんが参加され修了証(右の証書)を受け取りました。



派遣ミサの様子

次号、受講されたAさんに「信徒養成プログラム」の報告をいただく予定です

養成プログラム修了証

カトリック福岡教区宣教・養成委員会信徒養成部門主催
信徒養成プログラム 2022-2023 修了記念カード

- 1期 社会の中で生きる信者
- 2期 聖書とみことば
- 3期 典礼と体験・宣教と証し



「それぞれが置かれている場で、日常の雑務を通して、愛をもって生き、自分に固有のあかしを示すことで聖なる者となるよう、わたしたち皆が呼ばれているのです。」

(使徒的勧告『喜びに喜べ』14)

+行きましょう、主の平和のうちに

福岡教区司教 ヨゼフ・アベイヤ
2023年11月12日

笹丘ファミリア合唱団

20年以上前に作詞作曲した歌に再会!

21班ペトロ吉田剛さん(2022年10月笹丘教会転入)

Q.この聖歌を作られた経緯は?

「キリストを見つめて」は大聖年にあたる2000年の福岡サン・スルピス大神学院召命の集いのテーマソングとして作った曲です。(福岡サン・スルピス大神学院在籍時)

参加する多くの子どもたちに神さま、イエスさまのことを伝えられたら、そしてその呼び掛けに応えてもらいたいとの思いで作りました。

20年以上前の歌が笹丘教会に残っていたことに驚きと巡り合わせを強く感じました。

写真は外しています



34 キリストを見つめて

J=100 原曲 田村 邦子

G D Em Em7 C G Am D

1.キリストを見つめて 主の愛を信じたいの なかに
キリストを信じたよ 主の愛を信じたいの なかに
キリストを信じたよ 主の愛を信じたいの なかに

G D Em Em7 C D G

2.キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに

C G C Em7 Em

3.キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに

1. 2. 3. D Em Em C D G

4.キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに
キリストは 主の愛を信じたいの なかに

4. 5. C D Em Em C D G Fine

たしたちも こころも キリストと一緒
たしたちも こころも キリストと一緒

青いファイル聖歌集34番

吉田剛さんのギター演奏に合わせて二部合唱の練習をしました。子どもたちに向けた優しい歌詞と明るいメロディーが、笹丘教会にぴったり。「4番の最後は『わたしたちみんな笹丘のかぞく』と歌ってもいいですね」との吉田さんの提案で大盛り上がりでした。(S)

2月25日(日)ファミリア合唱団の「キリストを見つめて」練習風景

聖体奉仕者紹介

聖体奉仕者とは 主任司祭の要請と指導に基づいて臨時で聖体を授ける奉仕ができる資格をもつ者。任期は3年で必要に応じて任期の更新を行うことができます。



5班
マリア・エリザベト船橋 泉さん
ふなばし いずみ

笹丘教会の聖体奉仕者
よろしくお祈りします!!

19班
まきやま こうじ
ペトロ牧山幸二さん





信仰のルーツ

13班 ドミニコ野口由彦（のぐちよしひこ）さん

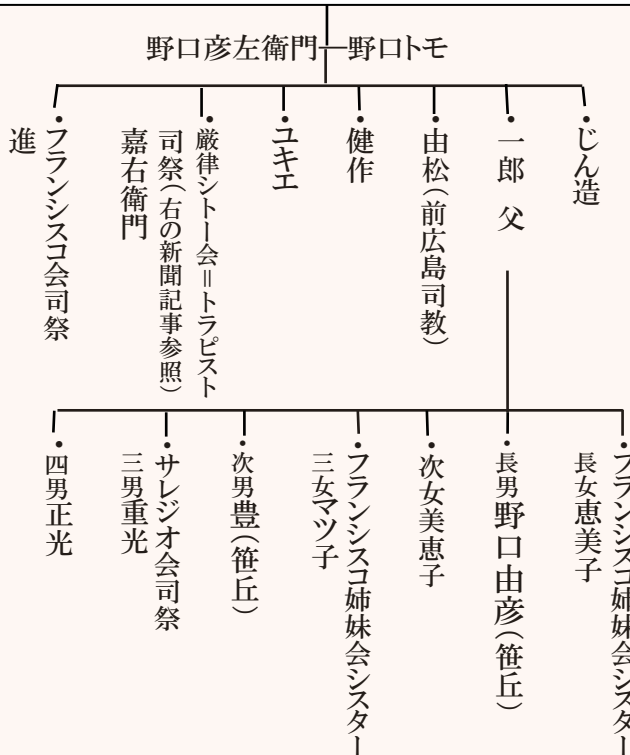


敬老会にて

野口由彦さんは、1月に帰天されたミカエル野口豊さんのお兄様です。サレジオ会の東京足立教会野口重光神父様は弟にあたり、豊さんの葬儀ミサの司式をされました。「浦上四番崩れ」の子孫なのだそうです。

先祖の系図

浦上四番崩れ 備前(岡山)に流された(主に本原郷の平、同辻の人々 総員117人 死亡18人 帰還103人 生児4人)



野口嘉右衛門(のぐちかうえもん)神父(厳律シトー会
 ||トラピスト)八月十三日北海道上磯町の同会修道院
 で腎不全のため死去。九十一歳。一九一二年長崎県生
 まれ。三五年初誓願。三八年盛式誓願。三九年司祭叙
 階。観想修道会の会員として裁縫室、豚舎などで黙々
 と働き、旧聖堂時代にはハルモニウム・オルガンをを用いて
 オルガニストとして活躍した。復員後に、現在「世界遺
 産」への登録が進められている被爆マリア像の頭部を浦上
 教会のがれきの中から発見し、大切に保管していた人と
 しても知られる。七人きょうだいのうち、三人が司祭
 で、故野口由松・前広島教区司教は兄に、野口進神父
 (フランシスコ会)は弟にあたる。【カトリック新聞より】

野口由彦さんの父の弟 野口嘉右衛門神父
カトリック新聞訃報欄 推定 2004 年発行

由彦さんのお話

父の弟に当たる野口嘉右衛門神父は、終戦後荒れ野化した長崎市の浦上天主堂あたりのがれきの中からマリア像の頭部を見つけ出し、それを大事にリュックに入れて持ち帰り北海道の所属修道会に大切に保管したということです。その後、被爆30年を機に長崎に戻され、現在浦上教会の資料室に保存されています。展示には模造されたものが置かれているということです。

戦時中の話ですが、私たちは長崎市の浦上天主堂付近に住んでおり、戦況がひどくなってきた頃、長崎市も危ないので疎開しろとの助言で平戸に疎開しました。中学の頃です。それから長崎市に原爆が投下されました。その翌日、父は仕事のこと、家のことで長崎市へ向かい爆心地を調べ歩きました。それによって父は被爆し、しばらくして命は奪われました。長男である私は弟、妹を育て上げなければなりません。弟、妹たちはサレジオ会に預かってもらい、私は伝手(つて)で10年間福岡の肉屋で修業することになりました。10年の間にはより給料がいいところから引き抜きの話があつて心移りしそうになりましたが、自分を預かってくれた恩義を忘れてはならないと、10年の約束をきっちり守りました。一人前になって福岡でお店を構えることができ、それによって家族、親族の働く場所を提供することができました。今年で創業70年になります。

平戸での学校時代は公教要理を厳しく勉強させられ、夏休みもあつたものではありませんでした。キリスト教だったばかりにこんな勉強させられて・・・と未信者の自由さをたまに羨ましく思うこともありましたが、今は、これが生きる基礎であると感じております。

(聞き手 N)



フランスの教会をたどる その3

今回が最終章です。

フランスの地方にある小さな教会 **サント・ラドゴンド教会**

パリから約70kmの距離にジヴェルニーという町があります。人口がわずか500人で、印象派画家モネの家がこの町に位置していること以外、目立つような特徴がなくごく普通のフランスの「田舎町」です。ここに「サント・ラドゴンド」教会があります。モネの家から約1km離れており、両側に民宿や農業に使われているように見える建物を観察しながら細い田舎道を歩いていきます。教会は、ロマネスク建築の建物なので、壁が分厚くて頑丈で、窓が比較的小さく造られています。訪れた日は平日だったため、2、3人の観光者以外には誰もいませんでした。



中央は祭壇です 固定席がなく木製の椅子がバラバラと置いてありました

11世紀に建設され、16世紀、そしてまた2010年ごろに改修工事が行われていたそうです。中に入りますと、窓が小さいためか、薄暗くて荘重な雰囲気を感じます。小さな教会にしては祭壇が意外と立派なもので、祭壇の上の天井に「天国」を思わせる空を飛ぶ天使たちの壁画が飾っています。驚いた点の一つは、固定されている信徒席がなく、普通の木製の椅子が祭壇前にバラバラと置いてあるだけです。



天国を感じさせる祭壇の上の天井

教会の裏にカーネーションやバラの花が多く、その奥に墓地があります。お墓に書いてある文字を見ますと、300年以上前に埋葬された方もいます。画家モネ（1926年12月没）はバラの花に取り巻かれている真っ白の立派な墓に埋葬されています。



画家モネの一族のお墓 (モネの子孫が一緒に)



裏庭にバラが咲いていました

教会内をぶらりと歩きますと、約900年かけて自分と同じ信者が毎週日曜日にこの空間に集まり、ミサに参加してきたことを思い浮かべていました。賽銭箱を思わせる箱に1ユーロの硬貨を入れて祭壇のそばにろうソクに火をともしました。そして、900年前にこの町の人たちが立っていた同じ場所に立ちお祈りしました。



画家モネの生年月日と死亡年月日が刻まれた石板



モネが晩年に住んでいた家



モネの絵「睡蓮の池」の現地

画家モネの庭園にて妻、フランスに住む長女と

写真は外していただきます

幼稚園行事紹介

✦ キャンドルサービス 12月20日 ✦✦

2学期の終業式の前日、笹丘カトリック幼稚園の園児と保護者が教会に集まり、厳粛な雰囲気の中でクリスマスの祈りと主の降誕の福音を朗読します。その後園長先生（ヒルデン神父様）がクリスマスのお祝いの意味を園児たちにわかりやすく話します。そして園児と保護者がそれぞれの共同祈願を唱え、園児たちが電気ろうそくを馬小屋の前に供え物としてささげます。その後、降誕節の間に子どもたちが貧しい人を助けるために貯めた献金を、各クラス委員が馬小屋の前にささげます。最後にクリスマスの聖歌を元気よく歌って、30分の祈りの儀式が終わります。参加者の多くは教会でのクリスマスミサを体験したことがないので、少しでもクリスマスの霊的な意味に触れる良い機会になれば、と思います。（ヒルデン神父様）



✦ ✦
写真は外
していま
す
✦

異動・秘跡 (2023年12月 ~ 2024年2月) 【敬称略】

結婚 12月24日 3班 マリア・アムンチアータ H.N・S.K → 22班へ

帰天 ~ 永遠の安息を願って兄弟姉妹のためにお祈りいたしましょう ~



23班ヨハネ D.T
12月9日81歳

10班ミカエル Y.N
1月22日77歳
13班 Y.Nさんの弟

19班フランシスコ T.U
2月14日94歳
8班 M.Uさんの父

広報委員会より お詫び 前号「こみちご降誕号 (No.109)」9ページ信仰のルーツの青砂ヶ浦教会の写真が間違っていました。修正記事を発行しておりましたが改めて報告いたします。大事なことを誤ってしまい申し訳ありませんでした。 正しい青砂ヶ浦教会 →



編集後記

2022年2月に初めて笹丘教会に訪れた日は新鮮に覚えています。それまで大名教会の英語ミサに時々参列していましたが、ある晴れた日に散歩に出ていて笹丘のイオンに行く途中で高い塔の上にある十字架を見かけました。「もしかすると」と思いながら、その方向に歩いてみました。たどり着いたのが笹丘教会でした。聖堂や事務所に誰もいなくて隣の幼稚園に尋ねたところ、ヒルデン神父様が登場してきました。一言で言うと、第一印象は「温かみ」。その言葉は笹丘教会そのものにも当てはまります。

その理由の一つは、年齢層の幅広いことです。赤ちゃんから高齢者までいて、本当に「家族」のような雰囲気が特徴的です。特に子どもが多いことが印象に残っています。僕は子どもの頃、日曜学校に通っていたため、「教会は子どもがいる場所」というイメージが根付いています。また、自分は子どもの頃からカトリックの家庭にいたため、カトリックの教えはもちろん、カトリックの価値観やそれぞれの祝祭日などが人生の一部になり当たり前となりました。自分はそんな体験があったからこそ、笹丘教会に通っている子どもたちの賑やかさが非常に微笑ましく見えます。

アメリカに帰ることにしましたが、笹丘教会の皆さんの温かみを忘れません。

主のご復活おめでとうございます。

私は母国アメリカニュージャージー州の教会でお祝いしています。

11班 E.C (ジョセフ)

3月27日にアメリカへ帰国される
Eさんを囲んで 広報委員会